

平成15年度フレッシュマンキャンプ実施報告

学務課学生担当

吉田千秋

前年度と同様に介護福祉専攻と食物栄養専攻の新入生を対象にフレッシュマンキャンプを実施した。これは両専攻の学生に介護福祉の任務の重大さを認識してもらうことと相互の親睦をはかることを目的としたものである。第1日目は京都嵐山で昼食をとったあと、京都木津町のハイタッチ・リサーチパーク内にある福壽園CHA研究センターを見学した。お茶の効用についての講義を受けたあと、中国をはじめ世界各国のお茶を見学し、その種類の多さに驚いた様子であった。つづいて同敷地内にあるセキスイ総合住宅研究所「納得工房」を見学した。この研究所の目的はさまざまな実体験を通して快適とはどういうことか、自分に適した住まいには何が必要かといったイメージを組み立て、住まいを設計することが生活を豊かにして行くためのいかに意義深いことなのかを納得してもらうことにある。台所ではキッチンの広さのチェックや設備器具の比較、さらに模型を使って理想のキッチンのシミュレーションができ、階段では材質やデザインの異なる階段を展示し、実際に昇り降りして階段についての理解を深めるよう工夫している。また体験コーナーでは足かせをつけて身体が不自由になったときの疑似体験を通して、これからの住まいはどうあるべきかを考え、長寿社会にふさわしい住まいのあり方を考えさせている。実際に学生が疑似体験し、階段の昇り降りの困難さに驚き、貴重な体験をしたようであった。介護福祉専攻は福壽園での見学の変わりにホテルニュー京都で介護福祉士の使命の重大さについての説明を受け学生達は真剣に聞き入った。夕食はホテルニュー京都で、両専攻の学生共、テーブルマナー講習を受け、その後、各専攻に別れて履修や学生規定等の質問や相談の時間を設けた。2日目はこのキャンプ最大の目的である大阪市住之江区南港北にある「ATCエイジレスセンター」にて、センターの概要を聞いたあと展示の見学や種々の体験を通して高齢化社会を考えていく機会を得た。とくに車椅子に乗ってのバリアフリー体験、装具をつけての高齢者体験、片まひの疑似体験、リハビリ体験等を通して高齢者、障害者に対する理解を深めた。食物栄養専攻の学生は直接介護福祉の業務に携わることはないが、このキャンプでの体験は多くの学生にとって高齢者、障害者の立場に立って物事を考える貴重な機会であったと確信した。